

研究課題別事後評価結果

1. 研究課題名： 機械学習と社会科学の融合による社会シミュレーションの革新

2. 個人研究者名

山田 広明（富士通（株）富士通研究所 研究員）

3. 事後評価結果

本研究課題は、自己回帰型ニューラルネットワークを用いた社会シミュレーションのサロゲートモデリング手法の開発とその実証を達成し、その成果は高く評価できる。特に、マクロスケールの人流や交通シミュレーションの構築という課題に対し、ドメイン知識を活用する方法を開発し、その有用性を実データで検証した点は画期的であり、3 件の特許出願という形での成果の具現化も評価に値する。

さらに、開発した技術を実課題へ応用し、学習データ分布外での性能低下の問題への対処という新たな課題にも取り組んでいる点は、進展性と応用性の高さを示している。これらの研究活動は、大規模イベントの交通マネジメントという社会的な課題解決に寄与する可能性を秘めており、その社会実装への取り組みも評価できる。

研究期間内に論文として成果をまとめられなかった点は残念ではあるが、本研究課題を発展させるプロジェクトがさきがけに採択されており、今後の成果に期待したい。